No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

合田産業株式会社 神辺工場
広島県福山市神辺町大字川南840
TEL：084-966-8080　FAX：084-966-8009

配合計画者名　久保田　良明

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月10日・9月21日～12月10日 (標準配合)
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	使用区分１号

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	ＢＢ

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び／又は水結合材比の目標値の上限	60％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	4.5％		

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社		密度 g/cm³	3.04	Na₂Oeq ％	－
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na₂Oeq ％ －
混和材②		－		－		－	

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	密度 g/cm³ 表乾	微粒分量の範囲％
細骨材	①	砕砂	笠岡市生江浜字柚木	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.63	2.67	7.0±2.0
	②	石灰砕砂	大分県津久見上青江	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.64	2.67	7.0±2.0
	③	回収細骨材	-	－	－	－	－	－	2.67	7.0未満
粗骨材	①	砕石	笠岡市生江浜字柚木(4020)	A	モルタルバー法	20～40	7.95	2.73	2.74	0.5±0.5
	②	砕石	笠岡市生江浜字柚木(2010)	A	モルタルバー法	10～20	7.00	2.69	2.70	0.5±0.5
	③	砕石	笠岡市生江浜字柚木(1005)	A	モルタルバー法	5～10	5.95	2.67	2.69	0.5±0.5
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	マイティ1000S	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na₂Oeq ％ 0.9
混和剤②		－		－	－
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ ％	水の種類	回収水(スラッジ水)	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	1％未満
回収骨材の使用方法	細骨材 B方法	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	A方法

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
276	－	－	157	507	339	－	534	316	210	－	1.66	－	－

水セメント比	57.0％	水結合材比	－％	細骨材率	44.8％

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。 JIS該当品	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:②　60.0:40.0 粗骨材①:②:③　50.0:30.0:20.0

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項　W/C≦60% AIR=4.5% 材齢28日

(1)変動係数(v)　当工場の実績により　v = 10.0 %

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.250$$

$m = \alpha_1 \times S_L = 1.250 \times 24 = 30.0\ N/mm^2$

よって　$m = 30.0\ N/mm^2$

(3)水セメント比(W/C)　$m = -10.14 + 23.07 \times C/W$

$W/C = 23.07 \div (30.0 + 10.14) \times 100 = 57.0\ \% \leqq$【60%(上限値)】

∴W/C = 57.0 %

(4)単位水量(W)　当工場の実績により　W = 157 kg/m³

(5)単位セメント量(C)　C = W ÷ (W/C) × 100 = 157 ÷ 57.0 × 100 = 276 kg/m³

Cv = C ÷ 密度 = 276 ÷ 3.04 = 91 ℓ/m³

(6)空気量(A)　A = 4.5 % × 1000 = 45 ℓ/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 = 0.640 m³/m³　実積率 = 61.0 %

Gv = 0.640 × 1000 × 61.0 ÷ 100 = 390 ℓ/m³

G1v = Gv × 50.0 % = 195 ℓ/m³　G1 = G1v×表乾密度 = 195 × 2.74 = 534 kg/m³

G2v = Gv × 30.0 % = 117 ℓ/m³　G2 = G2v×表乾密度 = 117 × 2.70 = 316 kg/m³

G3v = Gv × 20.0 % = 78 ℓ/m³　G3 = G3v×表乾密度 = 78 × 2.69 = 210 kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　Sv = 1000 − (W+Cv+Gv+A) = 1000 − 683 = 317 ℓ/m³

S1v = Sv × 60.0 % = 190 ℓ/m³　S1 = S1v×表乾密度 = 190 × 2.67 = 507 kg/m³

S2v = Sv × 40.0 % = 127 ℓ/m³　S2 = S2v×表乾密度 = 127 × 2.67 = 339 kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　s/a = Sv ÷ (Gv+Sv) × 100 = 44.8 %

(10)単位混和剤量(Ad)　Ad = C × 添加率 = 276 × 0.600 % = 1.66 kg/m³

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
276	−	−	157	507	339	−	534	316	210	−	1.66	−	−

水セメント比	57.0 %	細骨材率	44.8 %	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:②　60.0:40.0 粗骨材①:②:③　50.0:30.0:20.0

備考

No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

合田産業株式会社 神辺工場
広島県福山市神辺町大字川南840
TEL：084-966-8080　FAX：084-966-8009

配合計画者名　久保田　良明

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	6月11日～9月20日 （夏期標準配合）
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	使用区分1号

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－kg/m³
	塩化物含有量	0.30kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－cm
	空気量	4.5％		

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na₂Oeq ％	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na₂Oeq ％	－
混和材②		－		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	表乾	微粒分量の範囲％
細骨材	①	砕砂	笠岡市生江浜字柚木	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.63	2.67	7.0±2.0
	②	石灰砕砂	大分県津久見上青江	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.64	2.67	7.0±2.0
	③	回収細骨材	-	－	－	－	－	－	2.67	7.0未満
粗骨材	①	砕石	笠岡市生江浜字柚木(4020)	A	モルタルバー法	20～40	7.95	2.73	2.74	0.5±0.5
	②	砕石	笠岡市生江浜字柚木(2010)	A	モルタルバー法	10～20	7.00	2.69	2.70	0.5±0.5
	③	砕石	笠岡市生江浜字柚木(1005)	A	モルタルバー法	5～10	5.95	2.67	2.69	0.5±0.5
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	マイティ1000SR	種類	AE減水剤(遅延形Ⅰ種)	Na₂Oeq ％	1.0
混和剤②		－		－		－
混和剤③		－		－		－

細骨材の塩化物量	－ ％	水の種類	回収水(スラッジ水)	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	1％未満
回収骨材の使用方法	細骨材 B方法	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	A方法

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
276	－	－	157	507	339	－	534	316	210	－	2.07	－	－

水セメント比	57.0％	水結合材比	－％	細骨材率	44.8％

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。 JIS該当品	骨材混合比（容積混合）	細骨材①:②　60.0:40.0 粗骨材①:②:③　50.0:30.0:20.0

配合計算書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項	W/C≦60% AIR=4.5% 材齢28日				

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v = 10.0 %

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.250$$

$m = \alpha_1 \times S_L = 1.250 \times 24 = 30.0\ N/mm^2$

よって　$m = 30.0\ N/mm^2$

(3)水セメント比(W/C)　$m = -10.14 + 23.07 \times C/W$

$W/C = 23.07 \div (30.0 + 10.14) \times 100 = 57.0\ \% \leqq$【60%(上限値)】

$\therefore W/C = 57.0\ \%$

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W = 157 kg/m³

(5)単位セメント量(C)　$C = W \div (W/C) \times 100 = 157 \div 57.0 \times 100 = 276$ kg/m³

$Cv = C \div$ 密度 $= 276 \div 3.04 = 91$ ℓ/m³

(6)空気量(A)　$A = 4.5\ \% \times 1000 = 45$ ℓ/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 = 0.640 m³/m³　実積率 = 61.0 %

$Gv = 0.640 \times 1000 \times 61.0 \div 100 = 390$ ℓ/m³

G1v = Gv × 50.0 % = 195 ℓ/m³	G1 = G1v×表乾密度 = 195 × 2.74 = 534 kg/m³
G2v = Gv × 30.0 % = 117 ℓ/m³	G2 = G2v×表乾密度 = 117 × 2.70 = 316 kg/m³
G3v = Gv × 20.0 % = 78 ℓ/m³	G3 = G3v×表乾密度 = 78 × 2.69 = 210 kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　$Sv = 1000 - (W + Cv + Gv + A) = 1000 - 683 = 317$ ℓ/m³

S1v = Sv × 60.0 % = 190 ℓ/m³	S1 = S1v×表乾密度 = 190 × 2.67 = 507 kg/m³
S2v = Sv × 40.0 % = 127 ℓ/m³	S2 = S2v×表乾密度 = 127 × 2.67 = 339 kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　$s/a = Sv \div (Gv + Sv) \times 100 = 44.8\ \%$

(10)単位混和剤量(Ad)　$Ad = C \times$ 添加率 $= 276 \times 0.750\ \% = 2.07$ kg/m³

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
276	−	−	157	507	339	−	534	316	210	−	2.07	−	−

水セメント比	57.0 %	細骨材率	44.8 %	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:②　60.0:40.0 粗骨材①:②:③　50.0:30.0:20.0

備考

No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

合田産業株式会社 神辺工場
広島県福山市神辺町大字川南840
TEL：084-966-8080　FAX：084-966-8009

配合計画者名　久保田　良明

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	12月11日～3月10日 （冬期標準配合）
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	使用区分1号

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－ ℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び／又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	4.5 %		

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－
混和材②		－		－		－

	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	砕砂	笠岡市生江浜字柚木	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.63	2.67	7.0±2.0
	②	石灰砕砂	大分県津久見上青江	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.64	2.67	7.0±2.0
	③	回収細骨材	-	－	－	－	－	－	2.67	7.0未満
粗骨材	①	砕石	笠岡市生江浜字柚木(4020)	A	モルタルバー法	20～40	7.95	2.73	2.74	0.5±0.5
	②	砕石	笠岡市生江浜字柚木(2010)	A	モルタルバー法	10～20	7.00	2.69	2.70	0.5±0.5
	③	砕石	笠岡市生江浜字柚木(1005)	A	モルタルバー法	5～10	5.95	2.67	2.69	0.5±0.5
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	マイティ1000S	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na_2Oeq % 0.9
混和剤②		－		－	－
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ %	水の種類	回収水(スラッジ水)	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	1 %未満
回収骨材の使用方法	細骨材	B方法	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	A方法

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
276	－	－	157	507	339	－	534	316	210	－	1.10	－	－

水セメント比	57.0 %	水結合材比	－ %	細骨材率	44.8 %

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。 JIS該当品	骨材混合比（容積混合）	細骨材①:②　60.0:40.0 粗骨材①:②:③　50.0:30.0:20.0

配 合 計 算 書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項	W/C≦60% AIR=4.5% 材齢28日				

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v = 10.0 %

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.250$$

$m = \alpha_1 \times S_L = 1.250 \times 24 = 30.0\ N/mm^2$

よって　$m = 30.0\ N/mm^2$

(3)水セメント比(W/C)　$m = -10.14 + 23.07 \times C/W$

$W/C = 23.07 \div (30.0 + 10.14) \times 100 = 57.0\ \% \leqq$【60%(上限値)】

∴W/C = 57.0 %

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W = 157 kg/m³

(5)単位セメント量(C)　$C = W \div (W/C) \times 100 = 157 \div 57.0 \times 100 = 276$ kg/m³

$Cv = C \div$ 密度 $= 276 \div 3.04 = 91$ ℓ/m³

(6)空気量(A)　　$A = 4.5\ \% \times 1000 = 45$ ℓ/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 = 0.640 m³/m³　　実積率 = 61.0 %

$Gv = 0.640 \times 1000 \times 61.0 \div 100 = 390$ ℓ/m³

$G1v = Gv \times 50.0\ \% = 195$ ℓ/m³　　$G1 = G1v \times$表乾密度 $= 195 \times 2.74 = 534$ kg/m³

$G2v = Gv \times 30.0\ \% = 117$ ℓ/m³　　$G2 = G2v \times$表乾密度 $= 117 \times 2.70 = 316$ kg/m³

$G3v = Gv \times 20.0\ \% = 78$ ℓ/m³　　$G3 = G3v \times$表乾密度 $= 78 \times 2.69 = 210$ kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　$Sv = 1000 - (W + Cv + Gv + A) = 1000 - 683 = 317$ ℓ/m³

$S1v = Sv \times 60.0\ \% = 190$ ℓ/m³　　$S1 = S1v \times$表乾密度 $= 190 \times 2.67 = 507$ kg/m³

$S2v = Sv \times 40.0\ \% = 127$ ℓ/m³　　$S2 = S2v \times$表乾密度 $= 127 \times 2.67 = 339$ kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　　$s/a = Sv \div (Gv + Sv) \times 100 = 44.8\ \%$

(10)単位混和剤量(Ad)　　$Ad = C \times$ 添加率 $= 276 \times 0.400\ \% = 1.10$ kg/m³

配 合 表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
276	−	−	157	507	339	−	534	316	210	−	1.10	−	−

水セメント比	57.0 %	細骨材率	44.8 %	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:②	60.0:40.0
					粗骨材①:②:③	50.0:30.0:20.0

備考

No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

合田産業株式会社 神辺工場
広島県福山市神辺町大字川南840
TEL：084-966-8080　FAX：084-966-8009

配合計画者名　久保田　良明

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月10日・9月21日～12月10日 (標準配合)
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	使用区分1号

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－ ℃
	水の種類	使用材料欄に記載	ﾎｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	4.5 %		

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－

混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq %	－
混和材②		－		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	砕砂	笠岡市生江浜字柚木	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.63	2.67	7.0±2.0
	②	石灰砕砂	大分県津久見上青江	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.64	2.67	7.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石	笠岡市生江浜字柚木(4020)	A	モルタルバー法	20～40	7.95	2.73	2.74	0.5±0.5
	②	砕石	笠岡市生江浜字柚木(2010)	A	モルタルバー法	10～20	7.00	2.69	2.70	0.5±0.5
	③	砕石	笠岡市生江浜字柚木(1005)	A	モルタルバー法	5～10	5.95	2.67	2.69	0.5±0.5
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	マイティ1000S	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na_2Oeq % 0.9
混和剤②		－		－	－
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ %	水の種類	回収水(スラッジ水)	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	1 %未満
回収骨材の使用方法	細骨材 －	粗骨材 －		ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	A方法

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
276	－	－	157	507	339	－	534	316	210	－	1.66	－	－

水セメント比	57.0 %	水結合材比	－ %	細骨材率	44.8 %

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。 JIS該当品	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:②　60.0:40.0 粗骨材①:②:③　50.0:30.0:20.0

配合計算書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項	W/C≦60% AIR=4.5% 材齢28日				

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v = 10.0 %

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.250$$

$m = \alpha_1 \times S_L = 1.250 \times 24 = 30.0\ N/mm^2$

よって　$m = 30.0\ N/mm^2$

(3)水セメント比(W/C)　$m = -10.14 + 23.07 \times C/W$

$W/C = 23.07 \div (30.0 + 10.14) \times 100 = 57.0\ \% \leqq$【60%(上限値)】

∴W/C = 57.0 %

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W = 157 kg/m³

(5)単位セメント量(C)　$C = W \div (W/C) \times 100 = 157 \div 57.0 \times 100 = 276$ kg/m³

$Cv = C \div$ 密度 $= 276 \div 3.04 = 91$ ℓ/m³

(6)空気量(A)　　$A = 4.5\ \% \times 1000 = 45$ ℓ/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 = 0.640 m³/m³　　実積率 = 61.0 %

$Gv = 0.640 \times 1000 \times 61.0 \div 100 = 390$ ℓ/m³

G1v = Gv × 50.0 % = 195 ℓ/m³	G1 = G1v×表乾密度 = 195 × 2.74 = 534 kg/m³
G2v = Gv × 30.0 % = 117 ℓ/m³	G2 = G2v×表乾密度 = 117 × 2.70 = 316 kg/m³
G3v = Gv × 20.0 % = 78 ℓ/m³	G3 = G3v×表乾密度 = 78 × 2.69 = 210 kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　$Sv = 1000 - (W + Cv + Gv + A) = 1000 - 683 = 317$ ℓ/m³

S1v = Sv × 60.0 % = 190 ℓ/m³	S1 = S1v×表乾密度 = 190 × 2.67 = 507 kg/m³
S2v = Sv × 40.0 % = 127 ℓ/m³	S2 = S2v×表乾密度 = 127 × 2.67 = 339 kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　　$s/a = Sv \div (Gv + Sv) \times 100 = 44.8$ %

(10)単位混和剤量(Ad)　$Ad = C \times$ 添加率 $= 276 \times 0.600$ % = 1.66 kg/m³

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
276	−	−	157	507	339	−	534	316	210	−	1.66	−	−

水セメント比	57.0 %	細骨材率	44.8 %	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:②	60.0:40.0
					粗骨材①:②:③	50.0:30.0:20.0

備考

No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

合田産業株式会社 神辺工場
広島県福山市神辺町大字川南840
TEL：084-966-8080　FAX：084-966-8009

配合計画者名　久保田　良明

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	6月11日～9月20日 （夏期標準配合）
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	使用区分1号

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）				
セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －

指定事項（任意）			
骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
水の種類	使用材料欄に記載	ﾎｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60 %
混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
空気量	4.5 %		

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－

混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq %	－
混和材②		－		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	砕砂	笠岡市生江浜字柚木	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.63	2.67	7.0±2.0
	②	石灰砕砂	大分県津久見上青江	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.64	2.67	7.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石	笠岡市生江浜字柚木(4020)	A	モルタルバー法	20～40	7.95	2.73	2.74	0.5±0.5
	②	砕石	笠岡市生江浜字柚木(2010)	A	モルタルバー法	10～20	7.00	2.69	2.70	0.5±0.5
	③	砕石	笠岡市生江浜字柚木(1005)	A	モルタルバー法	5～10	5.95	2.67	2.69	0.5±0.5
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	マイティ1000SR	種類	AE減水剤(遅延形Ⅰ種)	Na_2Oeq %	1.0
混和剤②		－		－		－
混和剤③		－		－		－

細骨材の塩化物量	－ %	水の種類	回収水(スラッジ水)	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	1 %未満
回収骨材の使用方法	細骨材 －	粗骨材 －		ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	A方法

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
276	－	－	157	507	339	－	534	316	210	－	2.07	－	－

水セメント比	57.0 %	水結合材比	－ %	細骨材率	44.8 %

備考　骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。
JIS該当品

骨材混合比（容積混合）		
細骨材①:②	60.0:40.0	
粗骨材①:②:③	50.0:30.0:20.0	

配合計算書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項	W/C≦60% AIR=4.5% 材齢28日				

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v = 10.0 %

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.250$$

$m = \alpha_1 \times S_L = 1.250 \times 24 = 30.0\ N/mm^2$

よって　$m = 30.0\ N/mm^2$

(3)水セメント比(W/C)　$m = -10.14 + 23.07 \times C/W$

$W/C = 23.07 \div (30.0 + 10.14) \times 100 = 57.0\ \% \leqq$【60%(上限値)】

∴W/C = 57.0 %

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W = 157 kg/m³

(5)単位セメント量(C)　$C = W \div (W/C) \times 100 = 157 \div 57.0 \times 100 = 276$ kg/m³

$Cv = C \div$ 密度 $= 276 \div 3.04 = 91$ ℓ/m³

(6)空気量(A)　　$A = 4.5\ \% \times 1000 = 45$ ℓ/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 = 0.640 m³/m³　実積率 = 61.0 %

$Gv = 0.640 \times 1000 \times 61.0 \div 100 = 390$ ℓ/m³

G1v = Gv × 50.0 % = 195 ℓ/m³	G1= G1v×表乾密度 = 195 × 2.74 = 534 kg/m³
G2v = Gv × 30.0 % = 117 ℓ/m³	G2= G2v×表乾密度 = 117 × 2.70 = 316 kg/m³
G3v = Gv × 20.0 % = 78 ℓ/m³	G3= G3v×表乾密度 = 78 × 2.69 = 210 kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　$Sv = 1000 - (W + Cv + Gv + A) = 1000 - 683 = 317$ ℓ/m³

S1v = Sv × 60.0 % = 190 ℓ/m³	S1= S1v×表乾密度 = 190 × 2.67 = 507 kg/m³
S2v = Sv × 40.0 % = 127 ℓ/m³	S2= S2v×表乾密度 = 127 × 2.67 = 339 kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　　s/a = Sv ÷ (Gv+Sv) × 100 = 44.8 %

(10)単位混和剤量(Ad)　　Ad = C × 添加率 = 276 × 0.750 % = 2.07 kg/m³

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
276	−	−	157	507	339	−	534	316	210	−	2.07	−	−

水セメント比	57.0 %	細骨材率	44.8 %	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:②　60.0:40.0 粗骨材①:②:③　50.0:30.0:20.0

備考

No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

合田産業株式会社 神辺工場
広島県福山市神辺町大字川南840
TEL：084-966-8080　FAX：084-966-8009

配合計画者名　久保田　良明

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	12月11日～3月10日 （冬期標準配合）
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	使用区分1号

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	24	8	40	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－kg/m³
	塩化物含有量	0.30kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28日	流動化後のｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰの増大量	－cm
	空気量	4.5％		

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq ％	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq ％	－
混和材②		－		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	密度 g/cm³ 表乾	微粒分量の範囲％
				区分	試験方法					
細骨材	①	砕砂	笠岡市生江浜字柚木	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.63	2.67	7.0±2.0
	②	石灰砕砂	大分県津久見上青江	A	モルタルバー法	0～5	2.80	2.64	2.67	7.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石	笠岡市生江浜字柚木(4020)	A	モルタルバー法	20～40	7.95	2.73	2.74	0.5±0.5
	②	砕石	笠岡市生江浜字柚木(2010)	A	モルタルバー法	10～20	7.00	2.69	2.70	0.5±0.5
	③	砕石	笠岡市生江浜字柚木(1005)	A	モルタルバー法	5～10	5.95	2.67	2.69	0.5±0.5
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	マイティ1000S	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na_2Oeq ％ 0.9
混和剤②		－		－	－
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	－ ％	水の種類	回収水(ｽﾗｯｼﾞ水)	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	1％未満
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	A方法

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
276	－	－	157	507	339	－	534	316	210	－	1.10	－	－

水セメント比	57.0％	水結合材比	－％	細骨材率	44.8％

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。 JIS該当品	骨材混合比（容積混合）	細骨材①:②　60.0:40.0 粗骨材①:②:③　50.0:30.0:20.0

配合計算書

配合の設計条件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項	W/C≦60% AIR=4.5% 材齢28日				

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v = 10.0 %

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.250$$

$m = \alpha_1 \times S_L = 1.250 \times 24 = 30.0\ N/mm^2$

よって　$m = 30.0\ N/mm^2$

(3)水セメント比(W/C)　$m = -10.14 + 23.07 \times C/W$

$W/C = 23.07 \div (30.0 + 10.14) \times 100 = 57.0\ \% \leqq$【60%(上限値)】

∴W/C = 57.0 %

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W = 157 kg/m³

(5)単位セメント量(C)　$C = W \div (W/C) \times 100 = 157 \div 57.0 \times 100 = 276$ kg/m³

$Cv = C \div$ 密度 $= 276 \div 3.04 = 91$ ℓ/m³

(6)空気量(A)　$A = 4.5\ \% \times 1000 = 45$ ℓ/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 = 0.640 m³/m³　実積率 = 61.0 %

$Gv = 0.640 \times 1000 \times 61.0 \div 100 = 390$ ℓ/m³

$G1v = Gv \times 50.0\ \% = 195$ ℓ/m³　$G1 = G1v \times$表乾密度 $= 195 \times 2.74 = 534$ kg/m³

$G2v = Gv \times 30.0\ \% = 117$ ℓ/m³　$G2 = G2v \times$表乾密度 $= 117 \times 2.70 = 316$ kg/m³

$G3v = Gv \times 20.0\ \% = 78$ ℓ/m³　$G3 = G3v \times$表乾密度 $= 78 \times 2.69 = 210$ kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　$Sv = 1000 - (W + Cv + Gv + A) = 1000 - 683 = 317$ ℓ/m³

$S1v = Sv \times 60.0\ \% = 190$ ℓ/m³　$S1 = S1v \times$表乾密度 $= 190 \times 2.67 = 507$ kg/m³

$S2v = Sv \times 40.0\ \% = 127$ ℓ/m³　$S2 = S2v \times$表乾密度 $= 127 \times 2.67 = 339$ kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　$s/a = Sv \div (Gv + Sv) \times 100 = 44.8\ \%$

(10)単位混和剤量(Ad)　$Ad = C \times$ 添加率 $= 276 \times 0.400\ \% = 1.10$ kg/m³

配合表　kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
276	−	−	157	507	339	−	534	316	210	−	1.10	−	−

水セメント比	57.0 %	細骨材率	44.8 %	骨材混合比(容積混合)	細骨材①:②　60.0:40.0 粗骨材①:②:③　50.0:30.0:20.0

備考